

その行動の「責任」、どこまで持ちますか？ 「エコステーション」活動に参加してみようⅡ ～多忙な人向け・所要時間5秒？～（12020A）

ほん だ ひろ き
本多 広樹（生命環境学群 地球学類 3年）

はじめに

あなたは、自分の行動に「責任」を持っていますか？何気ない一言やちょっとした行動、ほんの数行のメール。さまざまな場面において全員に「責任」はあります。まったく感じないという人もいるでしょう。とても重く感じる人もいるでしょう。どこまで重く感じるかは人それぞれ。でもそれでは困る人が出てきます。自分がすべきことをしなかったせいで、苦勞する人が出てくる。自分がすべき苦勞を、すべて他人に押し付ける。その人にしかできないことなら、それも仕方ないかもしれません。でも、自分でもできることを大した努力もせず人にやらせる。これでいいのでしょうか。ましてや誰にでもできる簡単なことを押し付けるのは、「無責任」ではないでしょうか。

分別

ごみは分別するもの。これは誰もが思うことです。では、その理由は？「何故」分別するのか。答えはさまざまでしょう。対立する答えもあるでしょう。それが普通です。この世界のほとんどの問題には唯一の正解なんてありませんから。だからこそ、常に考えること、考え続けて「自分の答え」を持つこと。これが大切だと思います。ここに書いてあるのはあくまで「私」の考え。従う必要はまったくありません。

ただ、全員が好き勝手に意見を言ったり、自分の思うような行動を取ったりしては社会はまともりません。だから全員が納得、あるいは妥協できる「ルール」を作る必要があります。分別で言えば、「こ

こまでは分別してほしい」というところです。

ごみを分別する理由は、「素材に合わせた方法で処理するため」です。大半の人はこう思うでしょう。ではどこまですれば良いか。ここは人によって違うでしょう。だから「妥協点」を作るんです。物の素材はさまざまで、いちいち分けていては時間がいくらあっても足りません。でもごみ分別の種類は素材よりずっと少ない数です。みんなの「妥協点」です。だったら、守るべきではないですか？せめてそこまでは、自分の物（だったもの）に「責任」を持ちましょう。

活動内容

この活動では、「誰にでもできることをもっと大勢の人にやってもらおう」ということと、学内におけるごみ問題を絡め、「ペットボトルの分別をキャンパス利用者全員が行う」ことを目指しています。

ペットボトルを捨てる時、どうしますか？「ペットボトル」のごみ箱にそのままスローインですか？キャップは別素材で、適切な処理方法は違います。ラベルも別素材です。あと「5秒」使って外しましょう。面倒かもしれませんが、これが「妥協点」です。つくば市や筑波大学の「妥協点」です。守ってください。

そうは言っても、この大学の設備は「妥協点」に対応していません。キャップ回収箱がないから外そうという気にならない人も多いでしょう。そこでこの活動では、キャップ回収箱や啓発ポスターの設置を行っています。また、ごみ集積所に出てきたペットボトルの分別（キャップ、ラベル外し）も行っています。1本を分別するのはすぐ終わりますが、1週間分のペットボトルをやるとなると1時間以上かかります。普段から外した方が楽だし、自分の「責任」を他人に押し付けることもない。いいこと尽くしですね。

おわりに

自分のほんの少しの気遣い・行動で「責任」は簡単に果たすことができます。ここに書いた例で言えば、「5秒」使うだけでいいんです。それだけで、ペットボトルの分別については「無責任」とサヨナラです。

皆さんもぜひ、あと「5秒」使ってみてください。



ペットボトル用ごみ箱への掲示